

心に残る文化財子供塾 活動の概要と様子

～飯南町立頓原小学校～

1. 概要

6月17日（月）、飯南町立頓原小学校で『心に残る文化財子供塾』を行いました。はじめに遺跡の分布図を示して飯南町の遺跡を紹介し、縄文時代の生活について説明しました。

その後、とくに学校の近くにある志津見ダム建設に関連して発掘された遺跡を紹介し、五明田遺跡から出土した縄文土器を見学し、さらに下山遺跡の縄文土器や石器を実際に触れて観察しました。飯南町志津見地区は縄文遺跡の宝庫で、専門の研究者に注目されていることを説明すると、皆さん興味ぶかそうに聞いていました。

その後、「どんぐりハンバーグ作り体験」を行い、試食しました。「意外とおいしい」と好評でした。縄文時代には、身の回りにある自然の材料を工夫して食料としていたことを理解できたようです。

2. 授業の様子



縄文時代の生活についての説明



五明田遺跡の土器を見る

3. 子供塾を終えて

1) 児童の皆さんから

- ・縄文時代の実物に触ることができた
- ・頓原でたくさんの縄文時代遺跡があることに驚いた
- ・食べることができないと思っていたどんぐりを、工夫して食料としていたことに驚いた

2) 担任の先生から

実物が見学でき、触ることができたことによって体験がより実りある学習となり、昔の人々の暮らしについて興味・関心を持つことにつながった。

3) 埋蔵文化財調査センターから

縄文時代について、わかりやすく説明することに心がけ、地元の出土資料に触れる時間を設けました。とくに頓原の縄文時代遺跡の多さについて述べたことにより、この地区の重要性を理解してもらえたのではないのでしょうか。

「どんぐりハンバーグ作り体験」は、座学で縄文時代の食生活について説明したこともあり、身近にある自然の産品を食材としてうまく活用していたことを実感してもらえたと思います。